

Windows 10 移行ガイド

富士通がおすすめする移行ポイント



shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

はじめに

PC環境移行時の互換性の確保、年々増加するPCの管理・保守コスト、厳しさを増す情報管理とセキュリティ対策、氾濫する情報をもたらす生産性の低下。企業のPC環境にはこうした重要な課題が山積しています。Windows 10はWindows 7、Windows 8.1の機能をさらに進化させ、これらの課題を解決する数々の機能やツールを搭載。企業のPC管理の効率化を実現し、ビジネスユーザーの業務効率化を高めるなど、システム管理者、ユーザー、それぞれの立場でのPC環境を一新します。

本資料は、Windows 10への移行を検討する上での考え方や手順、対策など、基本的な情報をご紹介します。お客様のWindows 10への移行の一助としてご活用いただければ幸いです。

登録商標および商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorerは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の関連会社の商標です。
- その他の会社名、各製品名などの固有名詞は、各社の商号、登録商標または商標です。
- その他の各製品は、各社の著作物です。
- なお、本資料では、各製品を次のように略記しています。あらかじめご了承ください。
 - Windows® 10 を Windows 10と表記しています。
 - Windows® 8.1 を Windows 8.1と表記しています。
 - Internet Explorer® 11をIE11と表記しています。
 - その他、本資料に記載されている会社名、システム名、製品名などには必ずしも商標表示を付記しておりません。

CONTENTS

Windows 10 移行によるメリット

2

Windows 10の概要	2
Windows 10とは	2
Windows 10とWindows 7の関係	2
Windows 10のエディション体系	2
Windows 10 Proの機能	3
Windows 10 Enterpriseの機能	3
各エディションの機能比較	3
Windows 10の特徴	5
Windows 10で強化、追加された主な機能	6

Windows 10 移行のポイント

18

Windows 10 移行の考え方	18
Windows 10 移行時のポイント	18
ユーザーアプリケーション移行のポイント	19
アプリケーションの非互換と対応	19
タブレットモード時のアプリケーションの動作	19
バッテリー節約機能の影響	20
.NET Framework 3.5 非標準	21
ファイルの種類/プロトコルの関連付けの仕様変更	21
高解像度ディスプレイの影響	22
解像度の最小要件の変更	23
バージョン情報の取得	24
アプリケーション互換性ツールキット [参考情報]	25
更新プログラム提供方法の変更に伴う影響	26
サービスオプションの導入	26
文字の変更による影響と対策	27
システムフォントの変更	27
IVS文字の追加による影響	28
JIS 90 互換性フォントパックの影響	28
Internet Explorer 11の非互換と対応	29
エンタープライズモード IEによる互換性対応	29
Internet Explorer 11非互換 [参考情報]	31
64ビット Windowsの導入	32
32ビットから64ビットへの移行ポイント	32
ユーザーデータ移行のポイント	33
移行が必要な項目の見積もり	33
基本的な移行プロセス	33
データ移行のためのソリューション	34
移行ツール利用時の留意事項	34

付 録

35

ハードウェアやソフトウェア対応状況の確認	35
Windows 10対応状況を製品の開発元に問い合わせ	35
VB6/VC6 サポート状況	35
OSのライフサイクル	35
「FUJITSU Software Portshutter Premium」のご紹介	36
「FUJITSU ビジネスアプリケーション User Profile Agent」のご紹介	38
リンク集	40

Windows 10 移行によるメリット

Windows 7からWindows 10に移行すれば、おなじみのスタートメニューなどの使い勝手はそのままに、各デバイスに最適化された画面表示を利用できます。また仮想デスクトップによるタスク管理により、より生産性を高めることができます。

Windows 10はこれまでに開発されたWindowsの中で最も安全性に優れており、強化されたセキュリティ機能をご利用いただけます。

Windows 10の概要

▶ Windows 10とは

Windows 10は、さまざまな機能の強化と魅力的な新機能により、速度、作業効率性、安全性、互換性を追求した最新OSです。「Windows as a Service (WaaS)」という考えに基づき、Windowsの機能改善や新機能を提供していきます。

▶ Windows 10とWindows 7の関係

Windows 10は、Windows 7、8、8.1との互換性を確保しながら機能性や操作性を大きく向上させた最新のクライアントOSです。

▶ Windows 10のエディション体系

Windows 10のエディション体系は以下です。

一般ユーザー向け

Windows 10 Home

家庭向けのOSとして最も適切なエディションです。リッチなユーザーインターフェイスを搭載し、また他のPCや接続するデバイスとの連携を容易に、そして安全に行うことが可能です。新しいブラウザであるMicrosoft Edgeやタッチ対応端末向けのタブレットモード、指紋、虹彩などの新しい認証方式などの一般ユーザー向けの新機能をご利用できます。

企業ユーザー向け

Windows 10 Enterprise

Microsoftソフトウェアアシュアランス契約を結んでいる企業で使用可能。大規模な企業向けの機能が利用可能です。

Windows 10 Enterprise LTSC

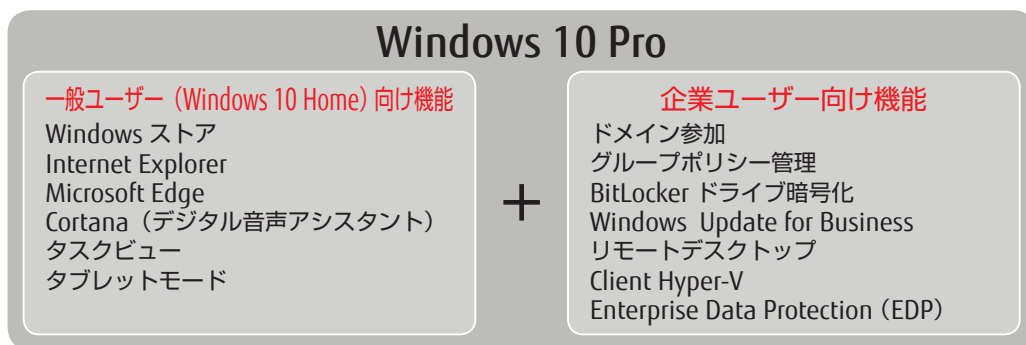
ミッションクリティカルなシステム向けのエディションです。

Windows 10 Pro

グループポリシーによる統合管理、ドメイン参加、Windows Update for Businessといった企業で必要とし管理者が統合管理できる機能をもつ、ビジネスでの利用に最適なOSです。また、会社や外出先での良好な接続性を維持しながら、情報の整理、検索、共有資源の利用を行うことができます。

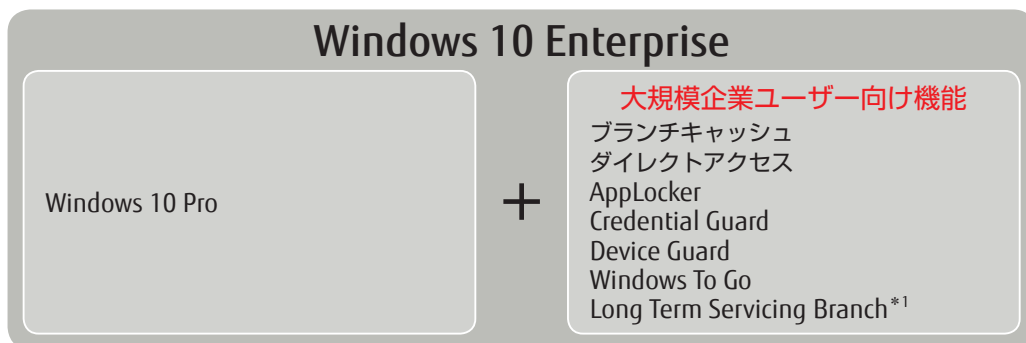
Windows 10 Proの機能

- パワーユーザーおよび、ビジネスニーズに最適なWindows 10
- 一般ユーザー向けの機能に加えて企業ユーザーで求められる基本的な機能を網羅
 - ・ ドメイン参加、グループポリシー管理の機能を使って管理者が集中管理
 - ・ Windows 7では、Enterprise向けの機能だったBitLockerを標準サポート
 - ・ Windows Update for Business による新機能アップグレード、更新プログラムの適用管理



Windows 10 Enterpriseの機能

大規模な企業向けのWindows 10のエディション。Windows 10 Proの機能に加えて、セキュリティや管理機能が充実。



*1 : Long Term Servicing Branchは、Windows 10 Enterprise LTSBエディションのみ搭載されます。

Point

Microsoftソフトウェアアシュアランス契約を結んでいる企業で使用可能です。

各エディションの機能比較

Windows 10の各エディションの包含関係は以下です。

Windows 10 Enterpriseには、Windows 10の持つすべての機能が包含されています。



機 能	Home	Pro	Enterprise
カスタマイズ可能なスタート メニュー	✓	✓	✓
Windows Defender & Windows ファイアウォール	✓	✓	✓
高速スタートアップ	✓	✓	✓
TPMのサポート	✓	✓	✓
バッテリー節約機能	✓	✓	✓
Cortana (デジタル音声アシスタント)	✓	✓	✓
Windows Hello	✓	✓	✓
仮想デスクトップ	✓	✓	✓
Continuum	✓	✓	✓
Microsoft Edge	✓	✓	✓
ドメイン 参加		✓	✓
グループポリシー管理		✓	✓
エンタープライズモード Internet Explorer (EMIE)		✓	✓
Assigned Access		✓	✓
リモートデスクトップ		✓	✓
Client Hyper-V		✓	✓
Direct Access			✓
Windows To Go			✓
AppLocker			✓
BranchCache			✓
基幹業務アプリのサイドローディング	✓	✓	✓
ビジネス向け Windows ストア		✓	✓
Microsoft Passport	✓	✓	✓
デバイスの暗号化	✓	✓	✓
Enterprise Data Protection		✓	✓
BitLocker		✓	✓
Credential Guard			✓
Device Guard			✓
Windows Update for Business		✓	✓
Current Branch for Business		✓	✓
Long Term Servicing Branch			✓
きめ細やかで高度な UX 制御			✓

Windows 10の特徴

生産性

- 起動/シャットダウンやスリープからの復帰スピード向上
(ハイブリッドシャットダウン、モダンスタンバイ)
- ブラウザの処理速度向上 (Microsoft Edge)
- スタートメニューの強化
- マルチタスク機能の改善 (タスクビュー)
- デスクトップ/タブレット利用時の最適モード (タブレットモード)
- 一元的な検索機能

セキュリティ

- Windows HelloやMicrosoft Passportによる新しい認証 (指紋、顔)
- デバイスの保護/データ保護機能の追加 (Device Guard)
- 資格情報の保護 (Credential Guard)
- 企業データの保護 (Enterprise Data Protection)

管 理

- 更新プログラムの柔軟な管理
(Windows Update for Business/Long Term Servicing Branch)
- Windows 7、Windows 8.1とカーネルは同じ。現在のシステムとの
スムーズな連携、導入可能

デバイス

- ハードウェア資産 (周辺機器) やソフトウェアをほぼそのまま利用可能

Windows 10で強化、追加された主な機能

生産性

- 起動/シャットダウンの高速化
- ハイブリッドシャットダウン*
- スリープからの復帰の高速化
- ファイルコピーの高速化
- モダンスタンバイ*
- Windows Updateの最適化*
- メモリ圧縮管理*
- Internet Explorer 11
- Microsoft Edge*
- WIM Bootのサポート*
- USB 3.0
- UEFIファームウェアのサポート
- スタートメニューの強化
- エクスプローラーの強化
- ユニバーサルWindowsアプリ*
- アプリ間のデータ連携*
- スナップ表示*
- アクション センターの強化*
- タスクビュー(仮想デスクトップ)*
- Cortana(デジタル音声アシスタント)*
- 検索機能の強化
- クイックアクセスメニュー*
- バッテリー節約機能*
- クラウドサービス連携*
- クラウドストレージ (OneDrive)*
- ディスク拡張機能強化
- Windows To Go*
- DirectAccessの強化
- アプリの4分割スナップ*

セキュリティ

- Windows Hello*
- Microsoft Passport*
- Credential Guard*
- Device Guard*
- Enterprise Data Protection (EDP)
- Windows Defender*
- Windows SmartScreen*
- BitLockerの強化
- AppLockerの強化
- セキュアブート*
- TPMのサポート
- ファイル履歴*
- 拡張保護モード
- クライアント Hyper-V*

管 理

- Windows Update for Business*
- Current Branch for Business*
- Long Term Servicing Branch*

デバイス

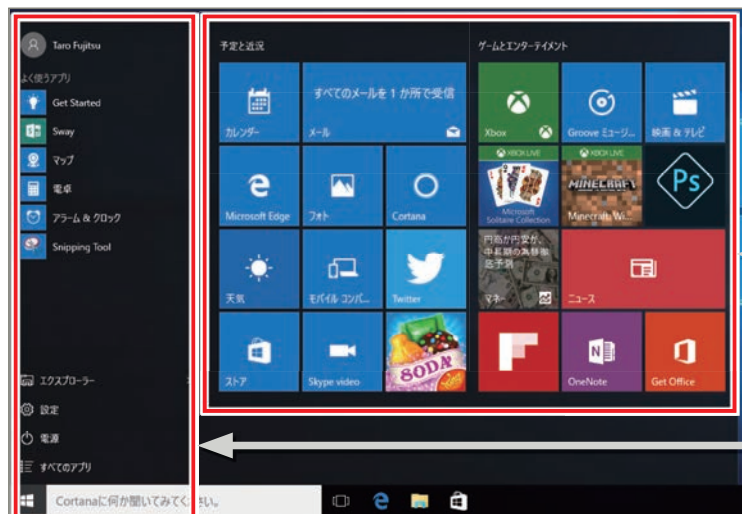
- ハードウェアの互換性
- タブレットモード*
- 2 in 1/コンバーチブル型 デバイス (Continuum)*

* 追加機能 (Windows 7と比較) 青字: 以降のページで紹介

生産性

■ スタートメニュー

- おなじみのスタートメニューが強化されて搭載されています。
- Windows 7のスタートメニューとおなじように使用できることに加えて、よく使うアプリをピン留めして配置を変えるなど、自分好みにカスタマイズできます。

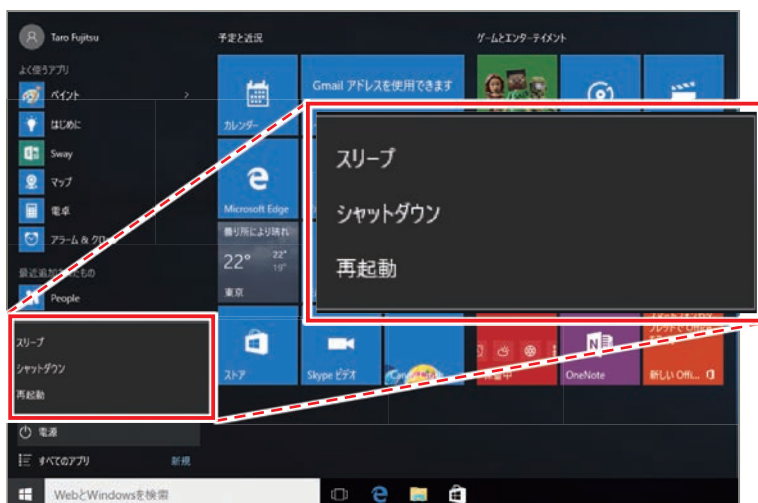


お気に入りのアプリをピン留めしたり、グループにまとめたり、自分好みにカスタマイズできます。

Windows 7とおなじように、「すべてのアプリ」から起動したアプリを探したり、電源メニューからPCをシャットダウンできます。

■ ハイブリッドシャットダウン

- ・ハイバネーションファイルによる高速起動（高速スタートアップ）を実現しました。
- ・スタートボタンから「電源」→「シャットダウン」の順に選択すると、状態をハイバネーションファイルに保存してシャットダウンし、電源をつけた時に高速に起動できます。



「電源」→「シャットダウン」の順に選択すると、状態をハイバネーションファイルに保存してシャットダウンし、電源をつけた時に高速に起動できます。（ハイブリッドシャットダウン）

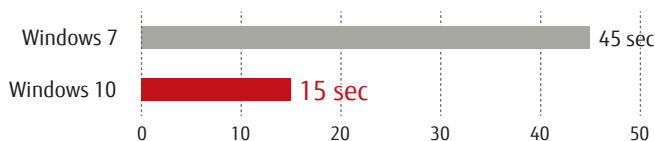
「電源」→「再起動」の順に選択すると、従来の再起動をします。

Point

- ・以下手順により、従来のシャットダウン（完全シャットダウン）を行うことができます。
 1. [設定] > [更新とセキュリティ] > [PCの起動をカスタマイズする] > [今すぐ再起動する]
 2. [オプションの選択] で [PCの電源を切る] を選択します。
- ・「再起動」の場合、電源を完全にシャットダウンした状態から、起動（コールドブート）を行います。これは従来の再起動と変わりません。
- ・ハイブリッドシャットダウン有効時には、PCを起動してもユーザーポリシーは即座に適用されますが、コンピューターポリシーは即座に適用されません。

● より速くなった起動

起動時間
約66%高速化
45秒から15秒へ



※Windows 10の場合、高速スタートアップの有効時の起動時間となります。

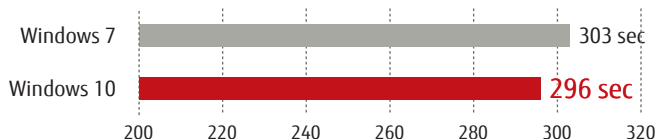
● スリープからの復帰時間の改善

スリープからの復帰
約66%高速化
6秒から2秒へ



● 大容量コピーの高速化

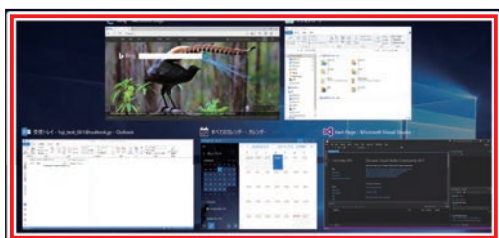
ファイルコピー
約2%高速化
303秒から296秒へ



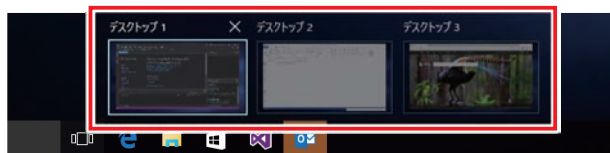
※検証環境：メモリ2GB、CPU Core2 Duo P8600、Microsoft社による検証

■ タスクビュー

追加されたタスクビュー機能を使用すれば、仮想デスクトップを用途ごとに作成できるため、複数のタスクを管理しやすくなり、業務の生産性を向上できます。



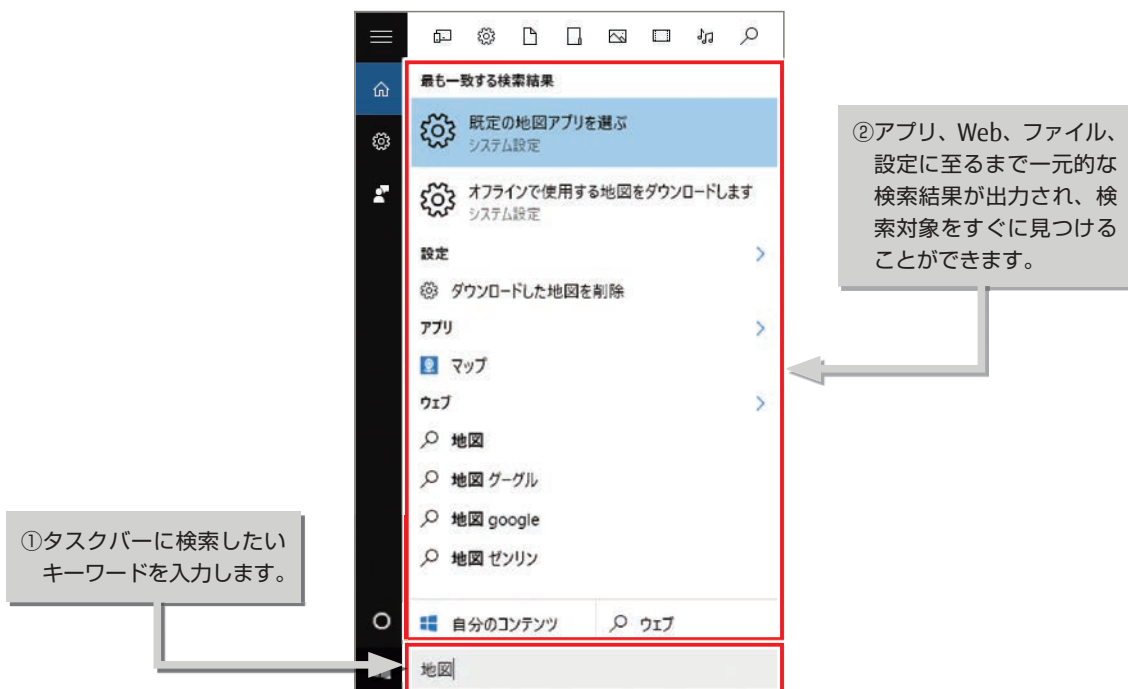
起動しているアプリのサムネイル一覧



用途ごとに仮想のデスクトップを複数作成

■ 検索

タスクバーの検索ボックスからWeb、アプリ、ファイル、設定に至るまで一元的な検索が可能で、すぐに検索対象を見つけることができます。

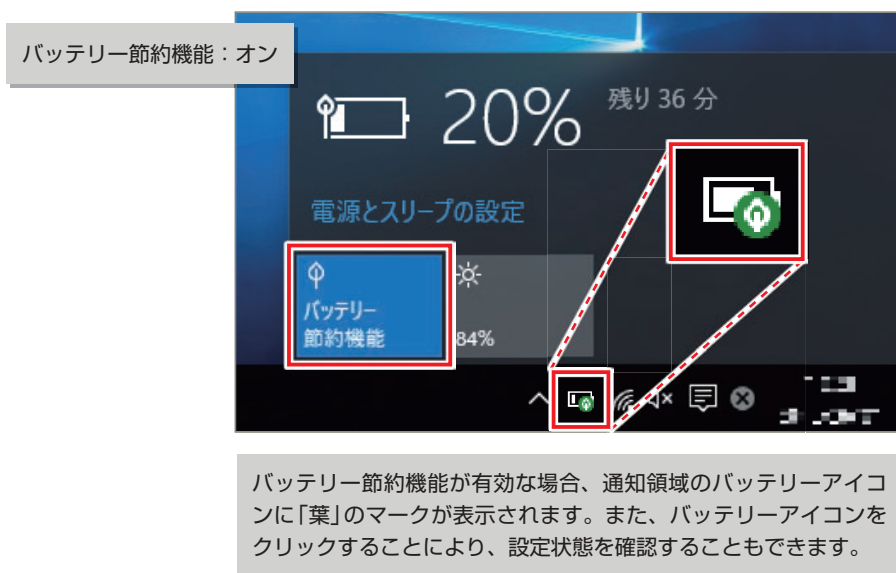


①タスクバーに検索したいキーワードを入力します。

②アプリ、Web、ファイル、設定に至るまで一元的な検索結果が出力され、検索対象をすぐに見つけることができます。

■ バッテリー節約機能

Windows 10ではバッテリー運用時の省電力機能としてバッテリー 節約機能が搭載されました。バッテリー残量が閾値（デフォルト20%）を下回った際に、バックグラウンドの動作を抑止し、消費電力を抑える機能です。

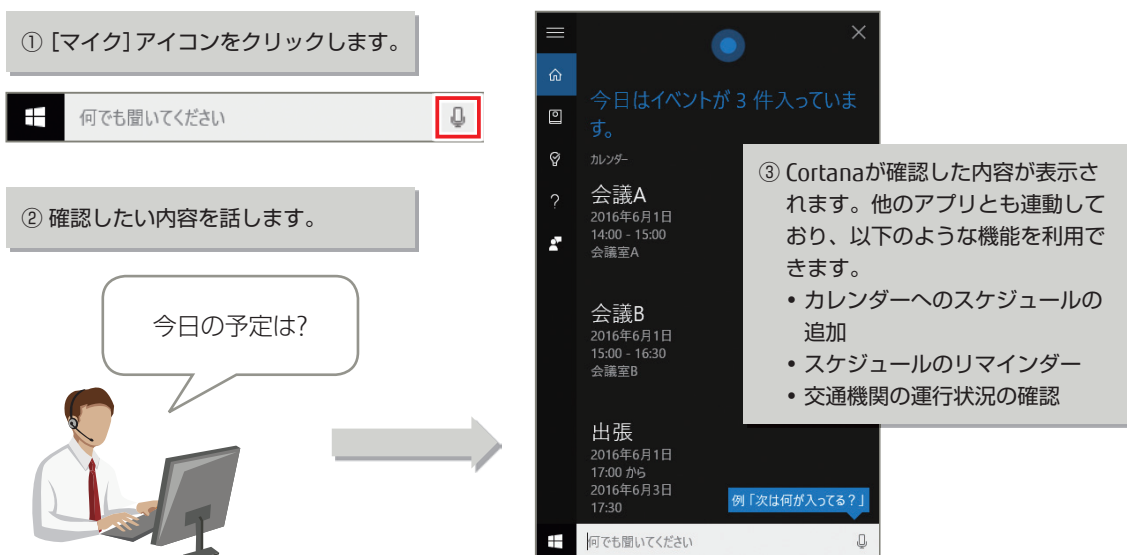


■ Cortana

「検索」機能はデジタル音声アシスタントソフト「Cortana」と連携しており、Cortanaが有効の場合は、音声アシスタント機能を利用できます。

確認したい内容を話すことで、様々な情報を簡単に確認できます。

「コルタナさん」と言うと「Cortana」が音声認識するようにできます。



Point

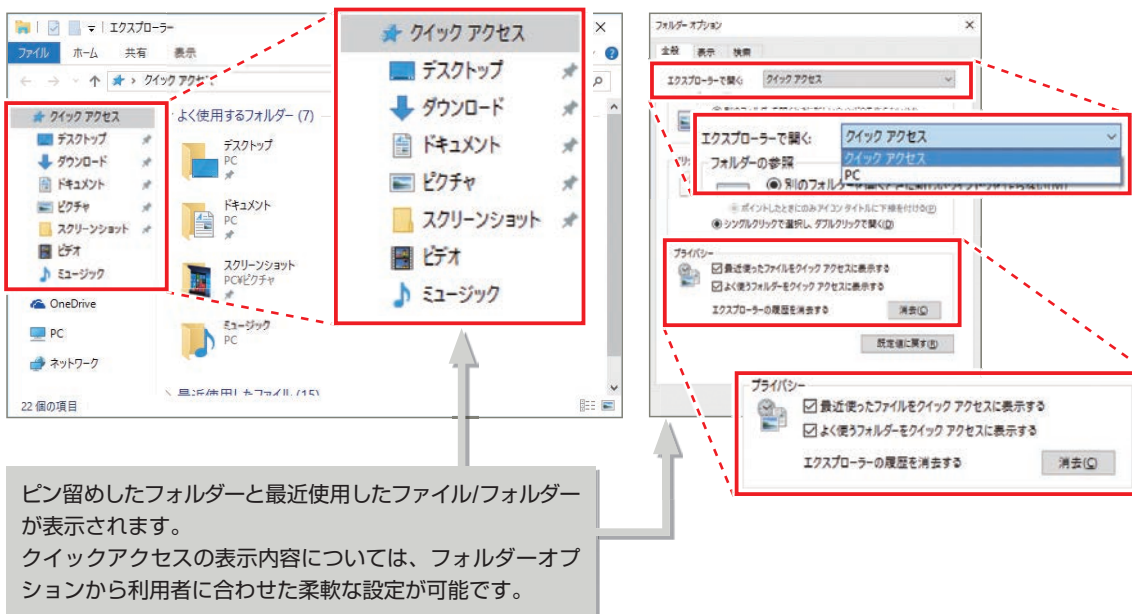
Cortanaを使用するためには、ユーザーごとにMicrosoftアカウントを使用したセットアップが必要です。グループポリシー制御によりCortanaの利用を禁止することも可能です。

■ エクスプローラーの変更

エクスプローラーの「お気に入り」は、「クイック アクセス」に置き換わりました。

クイック アクセスを使用すると、使用頻度の高い(最近使用した) ファイル/フォルダーに最短ルートでアクセスができます。

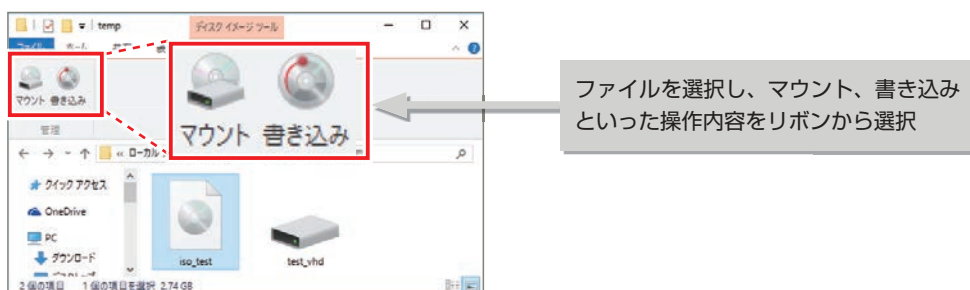
クイック アクセスでは、ピン留めしたフォルダー(お気に入り)以外に、使用頻度が高いフォルダー/ファイルが自動的に表示されます。



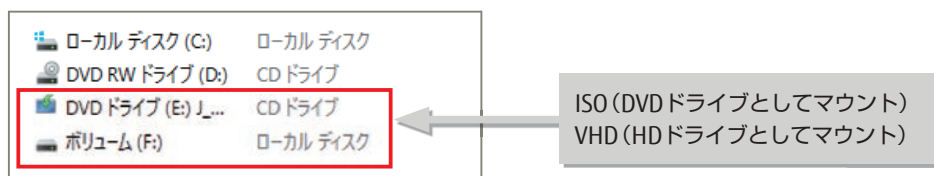
■ VHD/ISOファイルのマウント

Windows 8以降、VHD/ISOファイルのマウントや光学ディスクへの書き込みがエクスプローラーからできるようになりました。

ISOやイメージのアイコンを選択すると、選択内容に応じた操作がリボンに表示されます。



VHDは、新しいハードディスクとしてマウントされます。



■ Microsoft Edge

Windows 10には、古いWebサイトとの互換性を保つための「Internet Explorer 11」と最新のWeb標準に最適化された「Microsoft Edge (エッジ)」の2つのWebブラウザを標準で搭載しています。

● Internet Explorer 11

IE11は、過去のIE向けに作成されたWebコンテンツに対する後方互換性保持の目的でWindows10に搭載されています。従来からのドキュメントモードや、IE11から追加されたエンタープライズモードなど、後方互換を確保するための機能が搭載されています。

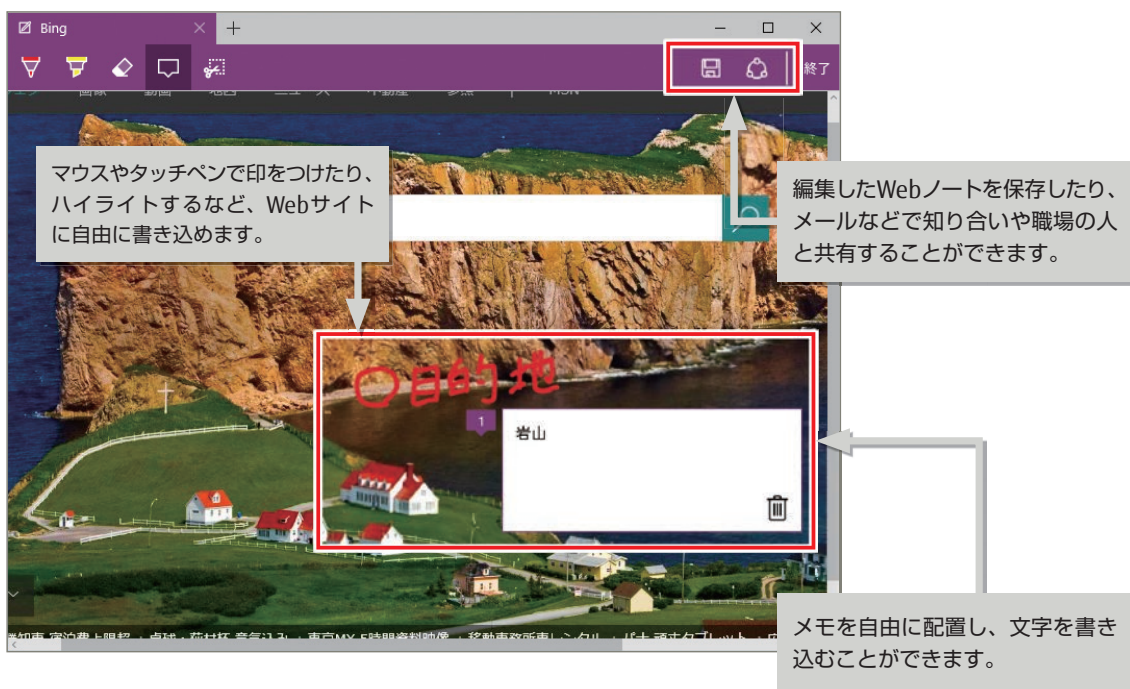
● Microsoft Edge

- Microsoft EdgeはChromeやFirefox、Safariといった、メジャーなモダンブラウザとの相互運用性を高め、Web 標準に準拠し、日々進歩するWebの技術を迅速にサポートする目的で新たに開発されました。
- Microsoft Edgeは他のモダンブラウザとの相互運用性を高めるための大きな変更が行われており、Internet Explorerとの互換性はありません。
- Microsoft EdgeはHTML5をはじめとする最新のWeb標準に準拠しながら、性能と安全性、信頼性を飛躍的に向上させました。
- Microsoft Edgeは、より軽快なWebブラウジングができるだけでなく、閲覧しているWebページに直接コメントを入力し、その情報をノートに保存できます。また、メールやSNSで共有する「Webノート」や広告やナビゲーションに煩わされることなく、記事を読むことに集中できる「リーディングリスト」といった機能を搭載しています。

■ Microsoft Edge 新機能

● Webノート

Webサイトにペンやタッチ機能で書き込みをしたWebノートを、アプリで簡単に共有することができます。



● リーディングモード

「リーディングモード」では、Webサイトをシンプルなレイアウトで閲覧や保存ができます。保存した記事は、オフライン環境でも読むことができます。

通常表示



レイアウトが複雑で不要な情報も表示されます。

リーディングモード



Webサイトのレイアウトがシンプルに表示され、読みやすくなります。

■ Internet Explorer / Microsoft Edge 比較

● Microsoft Edgeでサポートされない機能

Microsoft Edgeは、相互運用性を高めるためIE11固有の機能の多くをサポートしていません。以下の機能はMicrosoft Edgeでは非サポートとなります。

- ・ドキュメントモード
- ・Active X
- ・VB Script
- ・BHO (Browser Helper Objects)
- ・VML (Vector Markup Language)
- ・Silverlight
- ・AttachEvent / RemoveEvent
- ・currentStyle
- ・Conditional Comments
- ・IE8 layout quirks
- ・Direct X Filters and Transitions

Point

Microsoft Edgeについての開発者向け情報については以下を参照してください。

- https://developer.microsoft.com/ja-jp/microsoft-edge/
- https://developer.microsoft.com/ja-jp/microsoft-edge/platform/documentation/dev-guide/

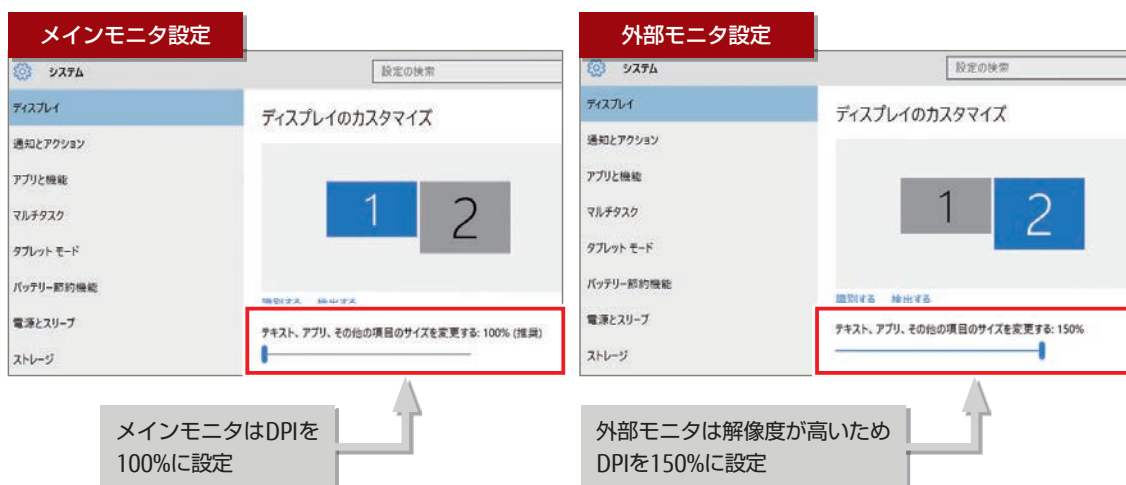
■ アクション センター

アクション センターが進化し、通知領域に追加されました。アクション センターから、PCからの様々な通知を確認したり、様々な設定に簡単にアクセスできます。



■ モニタ別に独立したDPI設定

マルチモニタの設定を“拡張”にしている場合、モニタ別に独立したDPI設定を利用することができます。メインモニタと外部モニタの解像度が異なる場合でも、テキストやアプリなどの項目を見やすいサイズに調整することができます。



Point

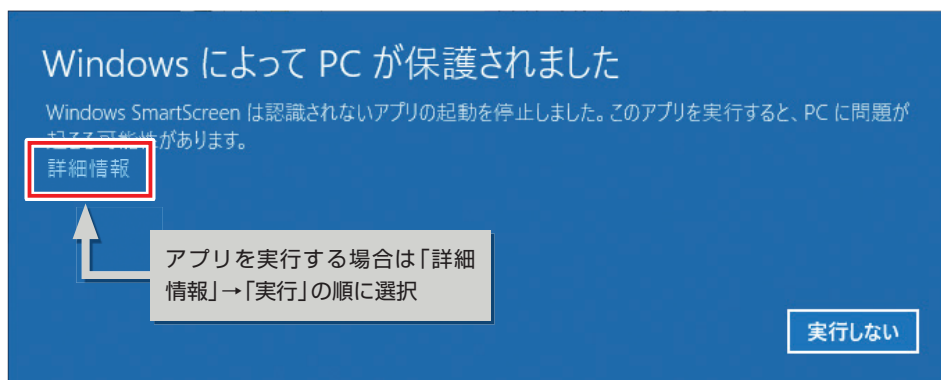
マルチモニタの設定を“複製”にしている場合、モニタ別にDPI設定を行うことはできません。

セキュリティ

■ Windows SmartScreen

Internet Explorer のSmartScreenフィルターがOSに統合されました。

実行しようとしたアプリの安全性を確認することにより、PCを保護します。リスクが高いと判断されたアプリは、初回起動時に次の画面が表示されます。

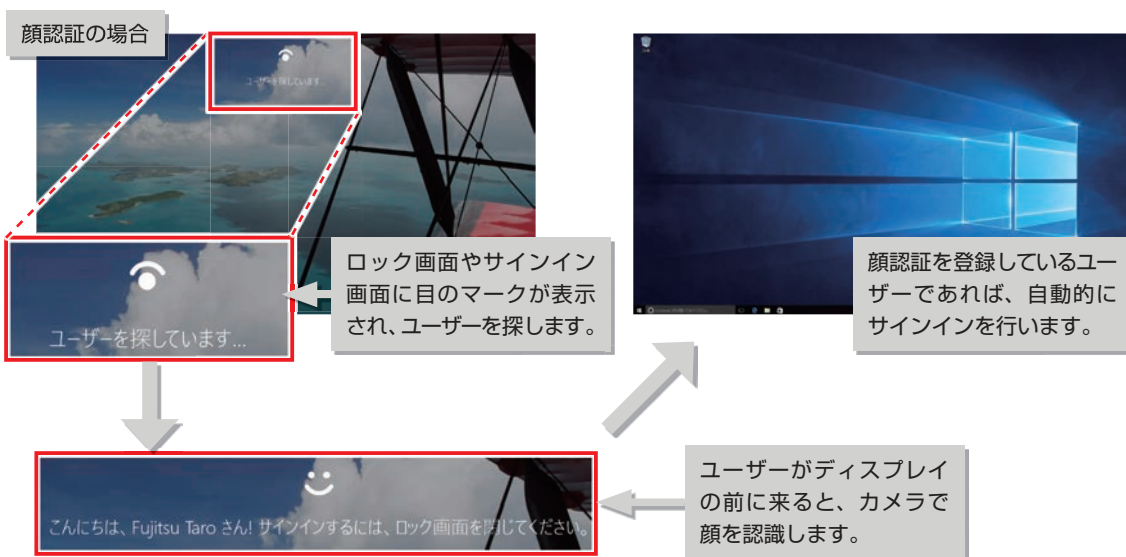


■ Windows Hello

Windows 10は生体認証Windows Helloを標準でサポートします。

Windows Helloでは指紋認証、顔認証や虹彩認証が利用可能です。

ロック画面からのOSサインインに加えて、セキュアなログインのためのシステム「Passport」により、Webサイトやアプリケーションへのログインもサポートします。



Point

顔認証、虹彩認証には特定のハードウェアが必要です。(Intel RealSense F200 sensor)

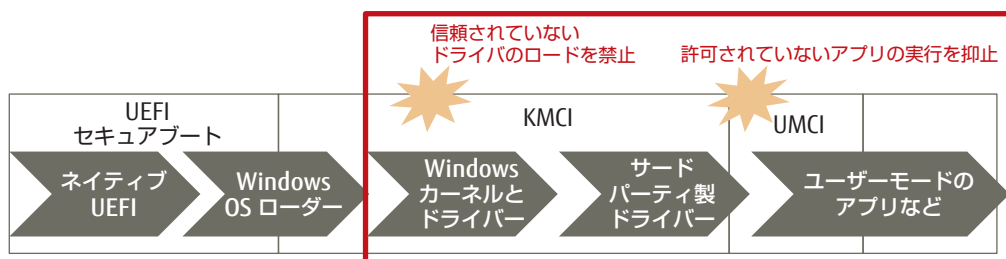
 <https://www.microsoft.com/ja-jp/windows/windows-10-specifications>

■ Device Guard

Device Guardはハードウェアとソフトウェアのセキュリティ機能を組み合わせて実現した、マルウェアなどのアプリケーションの実行を防ぐ保護機能です。

以下の機能により、ドライバーやアプリケーション署名情報をチェックし、許可したドライバー、アプリケーションのみを実行できます。

- Kernel Mode Code Integrity (KMCI)：信頼された証明書に署名されたドライバーのみがOSのPOSTフェーズでロード可能です。
- User Mode Code Integrity (UMCI)：信頼された証明書に署名されたアプリケーションのみ実行可能です。



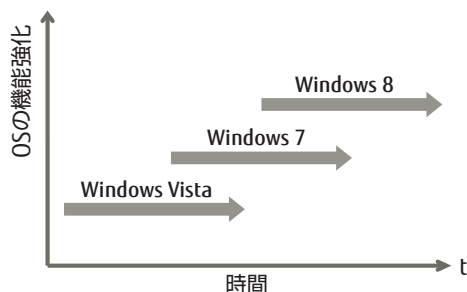
Device Guardは、仮想化拡張機能などのハードウェアの機能によって実現される機能です。利用するためには、以下の要件を満たす必要があります。

要 件	説 明
Windows 10 Enterprise	PCでは、Windows 10 Enterpriseが実行されている必要があります。
UEFI ファームウェア バージョン 2.3.1 以上 セキュア ブート	ファームウェアが UEFI バージョン 2.3.1以上とセキュア ブートを使用している必要があります。
仮想化拡張機能	仮想化ベースのセキュリティをサポートするには、次の仮想化拡張機能が必要です。 ・ Intel VT-x または AMD-V ・ Second Level Address Translation
ファームウェアのロック	ファームウェアのセットアップは、他のOSが起動しないように、また、UEFIの設定が変更されないようにするために、ロックする必要があります。また、ハード ドライブからの起動以外の起動方法を無効にする必要があります。
x64 アーキテクチャ	Windowsハイパーバイザー上で仮想化ベースのセキュリティが使用する機能は、64ビットPCでのみ実行できます。
VT-d または AMD-Vi IOMMU (入出力メモリ管理ユニット)	Windows 10では、IOMMUによって、メモリ攻撃からのシステムの回復性を強化します。
安全なファームウェア更新プロセス	ファームウェアが安全なファームウェア更新プロセスに準拠している必要があります。

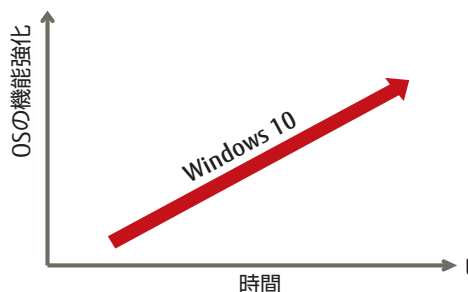
管 理

Windows 10では、Windows as a Serviceという考え方のもと、サポートポリシーやアップデートの提供の考え方が変更されました。

従来のメジャーバージョンアップやService Packで提供されていたような機能アップグレードが1年に数回のタイミングで提供されます。



3年に1回程度のメジャーバージョンアップごとに機能追加をしていく。



1年に数回程度のアップデート。
そのタイミングごとに機能追加をしていく。

■ Windows 10のアップデートの提供方法の変更

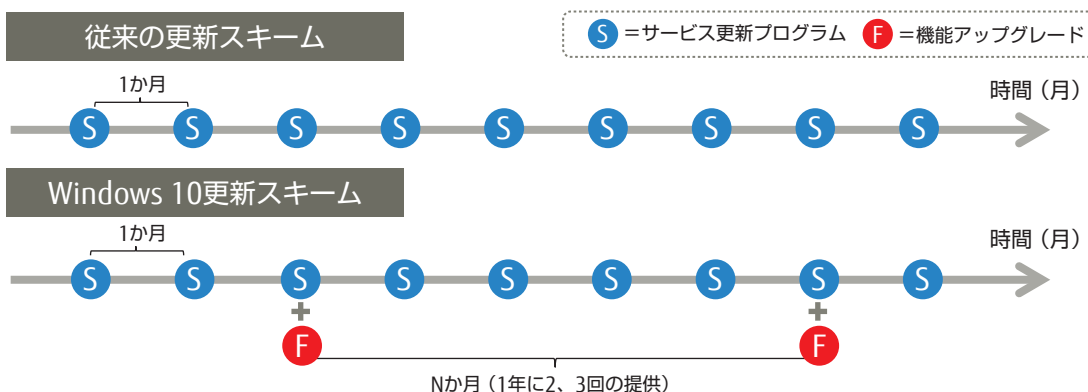
Windows 10では、従来のセキュリティ修正を中心とした「サービス更新プログラム」に加えて、1年に数回、新機能を含んだ「機能アップグレード」が配信されるようになりました。

サービス更新プログラム：セキュリティ修正やバグFixなどの更新。毎月配信される。

機能アップグレード：新機能や新しいデバイスへの対応などの更新。1年に数回配信される。

■ 更新スキーム

以下のような間隔で、Windows 更新プログラムは配信されます。



Point

機能アップグレードを適用しない場合は、次月以降のサービス更新プログラムを適用できません。

更新プログラムおよびアップグレードに関するWindows 10のサービスオプションを利用すれば、Windows Updateから配信された新機能アップグレード期間を延期し、非互換問題を避けるための猶予期間を設けることができます。

猶予期間の間は、サービス更新プログラムは適用できるため、セキュアな環境を保つことができます。(サービスオプションの設定およびオプションについての説明は後述します。)

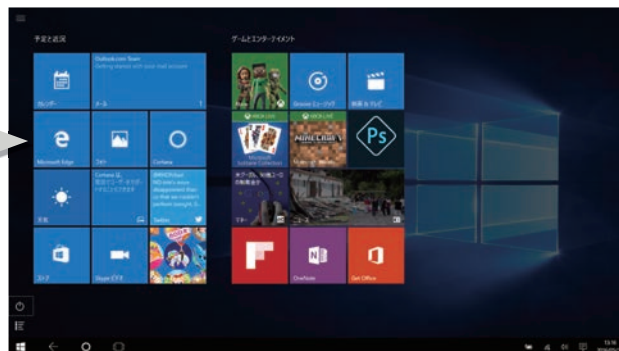
デバイス

■ タブレットモード

従来のデスクトップからタブレットモードに切り替えることができるようになりました。
タブレットモードを使用すれば、キーボードやマウスがなくても、使用しやすいようにUIが変化します。

タブレットモードでは、タッチ操作で使い易いようにUIが以下のように変化します。

- ・スタート画面の全画面表示
- ・アプリケーションの全画面表示
(Windowsアプリ、ストアアプリの種別に関わらず)



■ Continuum

2-in-1またはコンバーチブル型PCにおいて、キーボードの付け外しやタブレット状態へ変形時に、タッチ操作に適したUIとキーボード/マウス操作に適したUIの切り替えをスムーズに行えます。

【動作例 2-in-1 PCの場合】

キーボードを外した場合

①通知が表示されます。
通知をタップします。

②タブレットモードが開始されます。
タッチ操作に適したUIに切り替わります。

タブレットモードに切り替えますか?
デバイスをタブレットとして使用すると、Windowsのタッチ機能がより使いやすくなります。
切り替える前に常に確認する
はい いいえ

キーボードを付けた場合

①通知が表示されます。
通知をタップまたはクリックします。

②タブレットモードが終了します。
キーボード/マウス操作に適したUIに切り替わります。

タブレットモードを終了しますか?
後でタブレットモードをオンにするには、設定またはアクションセンターに移動します。
切り替える前に常に確認する
はい いいえ

Point

タブレットモードへの切り替えは、ハードウェア側の対応と、キーボードの付け外しを検知するソフトウェアなどの対応が必要です。富士通のブレインストール装置では、本機能を有効にするための富士通拡張機能ユーティリティが搭載されています。

 [https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/hardware/dn917883\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/hardware/dn917883(v=vs.85).aspx)

Windows 10 移行のポイント

Windows 10 移行の考え方

▶ Windows 10 移行時のポイント

事前確認



- システム要件の確認
- 法人向けPC Windows 10 動作確認情報の確認
<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/windows10/info/>
- 移行データの見積もり

プログラム修正



- Windows 10 技術情報サイトを利用しアプリケーションの修正を検討する
[https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/mt670638\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/mt670638(v=vs.85).aspx)

Windows Update 運用方法の検討



- Windows Update運用を検討し、適切なモデルを選択する。

データの移行



- USMT 10の利用

ユーザーアプリケーション移行のポイント

① アプリケーションの非互換と対応

Windows 7環境で運用していたアプリケーションを、Windows 10環境で使用した場合、その新機能や仕様変更により、以下の影響が発生する場合があります。

原因	非互換による影響
タブレットモード	ウィンドウサイズや位置が固定されており、全画面表示を想定していないアプリケーションの場合、文字崩れやボタンが押せない。
バッテリー節約機能	メールなど一部のアプリケーションからの通知が許可されない。一部のアプリケーションやタスクがバックグラウンドで動作しない。
.NET Framework 3.5 非標準	.NET Framework 3.5を利用しているアプリケーションが動作しない。
ファイルの種類/プロトコルの関連付けの仕様変更	プログラムから既定のアプリの設定が変更できない。
高解像度ディスプレイの影響	高解像度ディスプレイの影響で文字が滲んだり、UIが崩れる。
解像度の最小要件の変更	解像度として800×600を設定した場合、表示の一部が欠ける場合がある。
バージョン情報の取得	バージョン情報がAPIから正しく取れない場合がある。

非互換による影響が発生する場合、次の対策を検討してください。

② タブレットモード時のアプリケーションの動作

タブレットモードを有効にすると、スタートメニュー、アプリなどすべてのウィンドウが全画面表示となります。



■ 影響

ウィンドウサイズや位置が固定されており、全画面表示を想定していないアプリケーションの場合、文字崩れやボタンが押せないなどの影響が出る可能性があります。

■ 対策

移行予定のアプリケーションについて、事前にタブレットモード時の表示確認が必要です。正しくUIが表示されない場合、タブレットモードが有効であることを検出して、UIを調整する実装を行う必要があります。

Point

アプリがタブレットモードのON/OFFを検出する方法につきましては、以下を参照してください。
[Continuum] – [タブレットモードAPIと対話するアプリの作成]

<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/hardware/dn917883%28v=vs.85%29.aspx>

❶ バッテリー節約機能の影響

バッテリー節約機能は、バッテリー残量低下時にバックグラウンドの動作を制限する省電力機能です。

■ 影響

- ・メールなど一部のアプリケーションからの通知が許可されません。
- ・一部のアプリケーションがバックグラウンドで動作しません。
- ・タスクスケジューラに登録されているタスクのうち、動作するのは以下の条件を満たす設定を行っているタスクのみです。条件を満たしていないタスクは動作しません。^{*}
 - ユーザーがログオンしているときのみ実行するように設定されている。
 - タスクがアイドル状態の場合にのみ実行するように設定されていない。
 - 自動メンテナンス時に実行するように設定されていない。

■ 対策1

移行予定のアプリケーションについて、事前にバッテリー節約機能が有効な状態での動作確認が必要です。なお、アプリケーション側からバッテリー節約機能の状態を取得するためには、以下の実装を行う必要があります。

Point

アプリケーションからバッテリー節約機能の有効/無効を取得できます。詳細につきましては、下記を参照ください。

[SYSTEM_POWER_STATUS structure] – [SystemStatusFlag]

 <https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/desktop/aa373232.aspx>

^{*}バッテリー節約機能が有効の場合、タスクスケジューラに登録されているタスクは動作しません。
バッテリー節約機能が無効になったタイミングでタスクがまとめて動作します。

[https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/hardware/mt186374\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/hardware/mt186374(v=vs.85).aspx)

■ 対策2

移行予定のアプリケーションやタスクについて、バッテリー節約機能が有効時に動作しない場合、バッテリー節約機能を無効化する設定が必要です。

バッテリー節約機能を利用しない場合は、以下の方法で自動でバッテリー節約機能が有効にする機能を無効化できます。

- ① [設定] – [システム] – [バッテリー節約機能] を開き、バッテリー節約機能の現在の状態を「オフ」に変更します。
- ② [バッテリー節約機能の設定] から「バッテリー残量が次の数値を下回ったときにバッテリー節約機能を自動的にオンにする」をオフに変更します。

バッテリー節約機能

バックグラウンド動作とプッシュ通知を制限することでバッテリーの寿命を延ばします。

バッテリー節約機能の現在の状態:

☒ オン

バッテリー残量が 20% 未満になるとバッテリー節約機能が自動的にオンになります。

バッテリー節約機能の設定

バッテリー節約機能の設定

☐ バッテリー残量が次の数値を下回ったときにバッテリー節約機能を自動的にオンにする:

20%

☐ バッテリー節約機能がオンのときも、すべてのアプリケーションからのプッシュ通知を許可する

☒ バッテリー節約機能がオンのときは画面の明るさを下げる

Point

バッテリー制御機能はグループポリシー制御をすることはできません。

🔴 .NET Framework 3.5 非標準

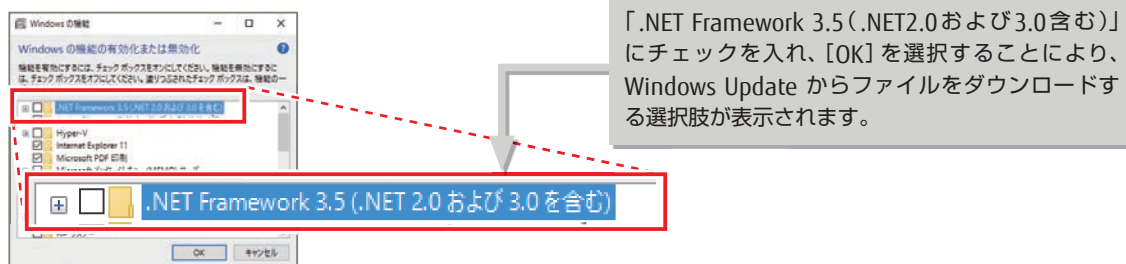
既定では、.NET Framework 3.5はインストールされていません。

■ 影響

.NET Framework 3.5を利用しているアプリケーションが動作しません。

■ 対策1

コントロール パネルで「Windowsの機能の有効化または無効化」からWindows Update経由でインストールします。



Windows インストールメディアがある場合、インターネット接続できない環境でもコマンドプロンプト(管理者権限)から以下のDismコマンドで、インストールができます。

```
DISM /Online /Enable-Feature /FeatureName:NetFx3 /All /LimitAccess /Source:<ドライブ>:\sources\sxs
```

Point

「Windowsの機能の有効化または無効化」から設定を行う場合、インターネット接続が必要です。

🔴 ファイルの種類/プロトコルの関連付けの仕様変更

使用するアプリをユーザーが明示的に選択する仕様に変更されました。 ファイルの種類やプロトコルの関連付けの変更をAPIからできなくなりました。

- IApplicationAssociationRegistration API内の動作変更
- IApplicationAssociationRegistration ::SetAppAsDefault () などのAPIは機能しない

■ 影響

プログラムから既定のアプリの設定が変更できません。

■ 対策

プログラムから設定アプリへユーザーを誘導します。

プログラムから設定アプリを起動するには、ms-settings: URI (Uniform Resource Identifier) スキームを使用します。

Point

ms-settings: URIスキームの詳細につきましては、以下をご覧ください。

【Windows 設定アプリの起動】

<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/apps/mt228342.aspx>

※プログラムで、ユーザーが「既定のプログラムの設定」にアクセス可能なようにする以下の設定は、Windows 10では機能しないため、ご注意ください。

[IApplicationAssociationRegistrationUI::LaunchAdvancedAssociationUI method]

<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/desktop/bb776330%28v=vs.85%29.aspx>

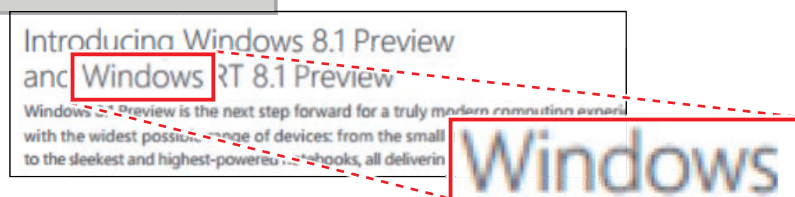
❶ 高解像度ディスプレイの影響

安価に高解像度ディスプレイを入手できるようになった昨今、高解像度に対応していないアプリ上で文字のぼやけなどの問題が露見するようになりました。

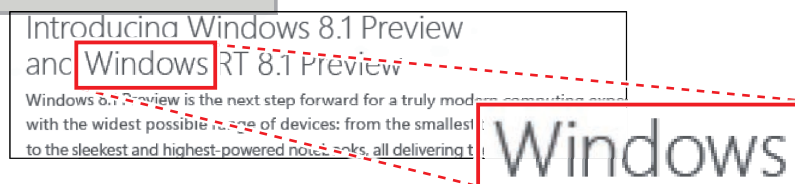
■ 影響

高解像度ディスプレイを使用すると、アプリのコンテンツがぼやけたり、UIがくすれたりする場合があります。ディスプレイの拡大率が150%の場合は以下のように表示されます。

Non-DPI aware アプリ



DPI aware アプリ



■ 対策

アプリケーションを高解像度に対応したSystem DPI awareまたは、Per-Monitor DPI awareアプリに変更します。

Non-DPI aware アプリ

アプリは常に96DPI(100%)としてレンダリングされてコンテンツは表示される。96DPI以上の装置の場合、DPI設定に合わせてDesktop Window Manager (DWM) が自動的に画面を拡大して表示する。ただ拡大しているだけなので、文字が不鮮明になる。

System DPI aware アプリ

システムDPI値にあわせてレンダリングされてコンテンツが表示されるため、高DPI環境でも文字を鮮明に表示できる。ただし、マルチモニター環境でさらに高DPIのモニターにアプリを移動すると、DWMが自動的に画面を拡大するため、文字が不鮮明になる。

Per-Monitor DPI aware アプリ

アプリは常にモニターごとに最適なDPI値でレンダリングされて正しいサイズでコンテンツが表示される。

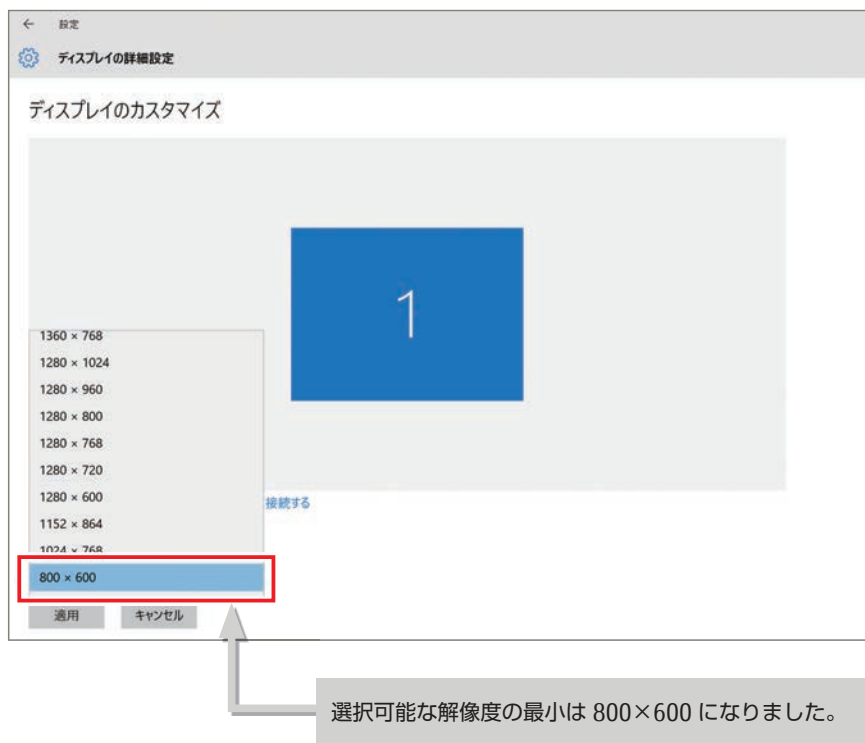
具体的な実装方法については、下記をご確認ください。

【DPI-aware Win32 アプリを実装するためのガイドライン】

 <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=307061>

① 解像度の最小要件の変更

最小解像度の要件が800×600になっています。解像度を1024×768で最適化しているアプリケーションは、表示の一部が欠ける可能性があるため800×600で正しく表示されるか確認する必要があります。



バージョン情報の取得

バージョン情報を取得するためにGetVersionEx()、VerifyVersionInfo()などのWin32APIや、Environment.OSVersionプロパティを用いている場合、OSのバージョン情報を正しく取得するためには、アプリケーションマニフェストのCompatibilityセクションにWindows 10のGUIDを追加します。

● Windows 10

```
<supportedOS Id="{8e0f7a12-bfb3-4fe8-b9a5-48fd50a15a9a}"/>
```

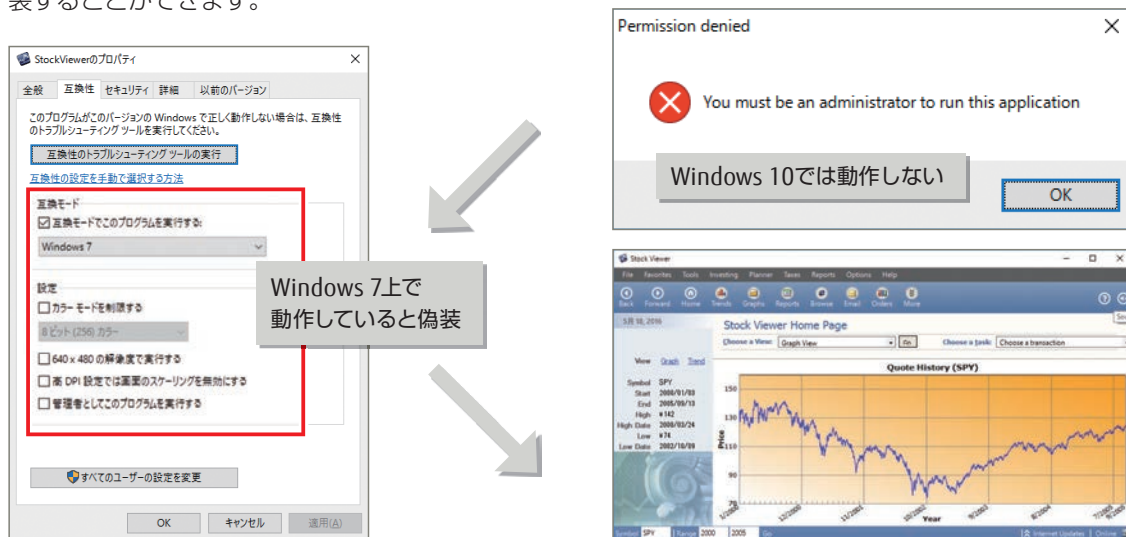
マニフェストファイルの例

```
<exe>.manifest
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<assembly manifestVersion="1.0" xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v1" xmlns:asmv3="urn:schemas-microsoft-com:asm.v3">
  <assemblyIdentity
    type="win32"
    name=SXS_ASSEMBLY_NAME
    version=SXS_ASSEMBLY_VERSION
    processorArchitecture=SXS_PROCESSOR_ARCHITECTURE
  />
  <description> my app exe </description>
  <trustInfo xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v3">
    <security>
      <requestedPrivileges>
        <requestedExecutionLevel
          level="asInvoker"
          uiAccess="false"
        />
      </requestedPrivileges>
    </security>
  </trustInfo>
  <compatibility xmlns="urn:schemas-microsoft-com:compatibility.v1">
    <application>
      * <!-- Windows 10 -->
      * <supportedOS Id="{8e0f7a12-bfb3-4fe8-b9a5-48fd50a15a9a}"/>
      <!-- Windows 8.1 -->
      <supportedOS Id="{1f676c76-80e1-4239-95bb-83d0f6d0da78}"/>
      <!-- Windows Vista -->
      <supportedOS Id="{e2011457-1546-43c5-a5fe-008deee3d3f0}"/>
      <!-- Windows 7 -->
      <supportedOS Id="{35138b9a-5d96-4fbd-8e2d-a2440225f93a}"/>
      <!-- Windows 8 -->
      <supportedOS Id="{4a2f28e3-53b9-4441-ba9c-d69d4a4a6e38}"/>
    </application>
  </compatibility>
</assembly>
```


① アプリケーション互換性ツールキット [参考情報]

■ 互換性プロパティでの確認

実行ファイルのプロパティの「互換性」タブで、アプリケーションが動作するプラットフォームなどを偽装することができます。



Point

互換性プロパティの設定で解決できる場合、アプリケーション互換性ツールキット [Application Compatibility Tool Kit (ACT6.1)] を利用し互換性データベースを作成することで解決できる可能性があります。作成した互換性データベースは多数の環境に配布することができます。

■ ACT6.1を用いた互換性データベースの利用とは

● 問題点

- Windows 7で動作するアプリケーションが動作しない。
- プログラムを修正して、Windows 10対応を行うだけの猶予がない。
⇒Windowsバージョンの非互換 (Windows 7は 6.1、Windows 10は 10.0) など

● 解決方法

- アプリケーション互換性ツールキット (ACT6.1) でアプリケーションの互換性データベースを作成。作成したデータベースをWindows 10に配布し適用する。



ACT6.1はマイクロソフト社から提供される無償ソフトウェアです。
ACT6.1の利用は事前に十分に検証作業を行うことをお勧めします。
本ソフトウェアに関するお問い合わせなどについて、富士通では対応できかねます。

更新プログラム提供方法の変更に伴う影響



サービスオプションの導入

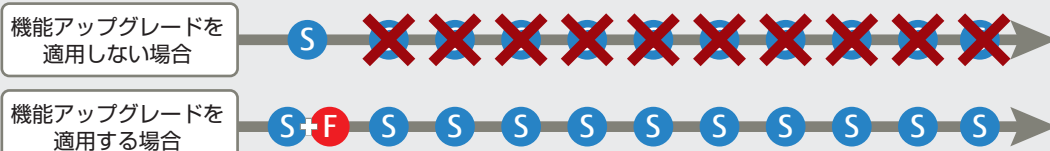
前述のように機能アップグレードの更新の考え方が変わったため、未対応の企業には、1年に数回の新機能を含む更新プログラムが配信されます。

機能アップグレードの配信を遅らせ、非互換検証の期間を設けたい企業は以下のオプションから適切なオプションを選択する必要があります。

Current Branch（既定）

エディション：Home、Pro、Enterprise

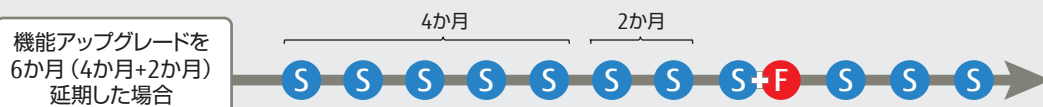
コンシューマ向け。最新の機能アップグレードのリリース後に即座に適用することが前提のモデルです。



Current Branch for Business

エディション：Pro、Enterprise

ビジネスユーザー向け。機能アップグレードがCurrent Branchの4か月後に提供され、さらに最大で8か月間の延期が可能です（最大で12か月）。延期期間中もサービス更新プログラムが提供されます。



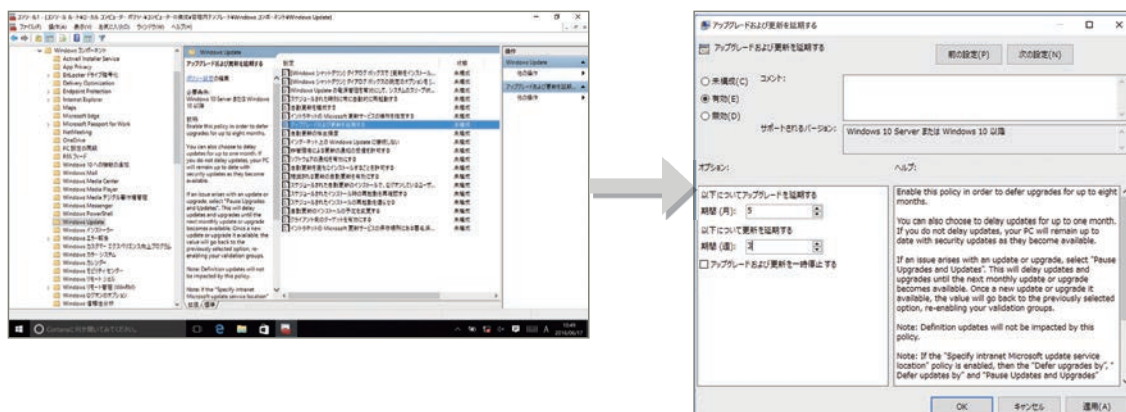
Long Term Servicing Branch

エディション：Enterprise

特定システム向け。機能アップグレードがなく、サービス更新プログラムのみ提供されます。Windows SAまたはWindows 10 Enterprise Upgradeにて利用可能です。



Current Branch for Businessでは、ポリシーにより更新プログラムの公開から適用開始までの猶予期間を設定できます。



Point

Windows Server Update Service (WSUS) などの構成管理製品を使用している場合は、上記ポリシーによる管理は行えません。従来のWSUSの運用と同様に、インストールの開始前に管理者によって、機能アップグレードおよびサービス更新プログラムのリリースの管理を行います。

文字の変更による影響と対策

システムフォントの変更

システムフォントがWindows 7ではメイリオでしたが、Windows 10ではYu Gothic UIに変更されました。

メイリオ

富士通株式会社フジツウカブシキガイシャ

ふじつうかぶしがいいしやabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789

Yu Gothic UI

富士通株式会社フジツウカブシキガイシャ

ふじつうかぶしがいいしやabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789

影響

フォントは文字幅や改行幅の違いなどにより、表示の際には文字全体のサイズが異なる場合があります。システムフォントを使用しているアプリケーションの場合、文字が目的のサイズにならないことにより、これまでは発生していなかった改行が発生し、UIが崩れてしまう可能性があります。

対策

移行予定アプリケーションの各画面について、事前に表示確認とUIを調整する実装を行う必要があります。

▶ IVS文字の追加による影響

- IVS (Ideographic Variation Sequence) 文字がサポートされます。

IVS文字は、JIS 90字体 (XP以前) を表現した字体で、JIS 2004では表現できなかったJIS 90字体を表示し、JIS 2004との混合文書を作成できます。

■ 影響

Windows 10でも、IVS文字に対応していないアプリケーションでは、期待した通りの字形で文字が表示されなかったり、文字化けが発生する可能性があります。

■ 対策

システム上で、IVS文字を入力し、データベースなどサーバー間で動作異常がないか確認してください。

▶ JIS 90 互換性フォントパックの影響

- Windows Vista以降、JIS 2004がサポートされるようになり、Windows XPから変更された字形や追加された文字があります。
- Windows XP環境との互換性維持のためにWindows 7向けに、MicrosoftからJIS 90互換性フォントパックが提供され、Windows 7環境でもJIS 90環境を利用できていましたが、Windows 10では提供されていません。

Internet Explorer 11の非互換と対応

① エンタープライズモード IEによる互換性対応

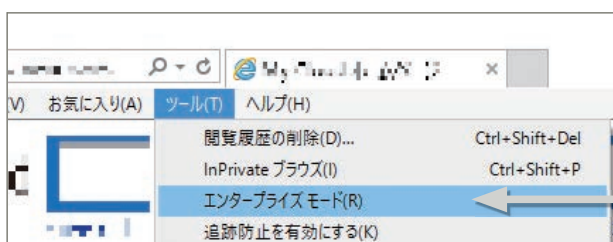
■ エンタープライズモード IEについて

- エンタープライズモード IEは、IE11で搭載された新機能を利用しながら、古いバージョンのIEのために作成された特定のWebサイトやWebアプリを動作させる機能です。
 - ・ IE11上で旧来のIEをエミュレートして動作させます。
 - ・ 指定したWebサイトやWebアプリを古いバージョンのIEとして動作させることが可能です。
- 具体的には、以下の互換性の問題を解決します。
 - ・ ドキュメントモードによるレンダリングの選択に関する問題の解決
 - ・ サードパーティー製のツールバーなど、IE11で動作しないソフトウェアの問題の解決
 - ・ IEのコントロールを利用したアプリケーションの問題の解決
- 本機能を利用するメリット
 - ・ 古いバージョンのために作成された業務アプリに依存している企業でも、業務を継続しながら安全に最新バージョンのIEに移行することができます。
 - ・ IE11に移行することで、向上したパフォーマンスやセキュリティ、HTML5やCSS3のような新しい機能を利用できます。

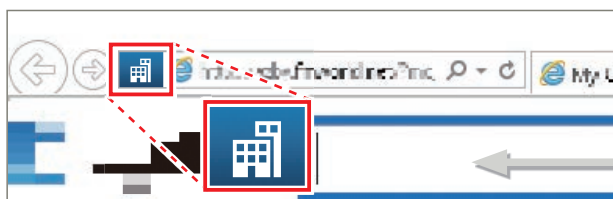
グループポリシーにより、エンタープライズ モードで以下の設定が可能です。

● ユーザーによる設定

- ・ IE11の[ツール]メニューに「エンタープライズモード」が追加されます。ユーザーは、「エンタープライズモード」を選択することで、エンタープライズモード IEを有効化し、IE8で動作するWebサイトを閲覧することができます。



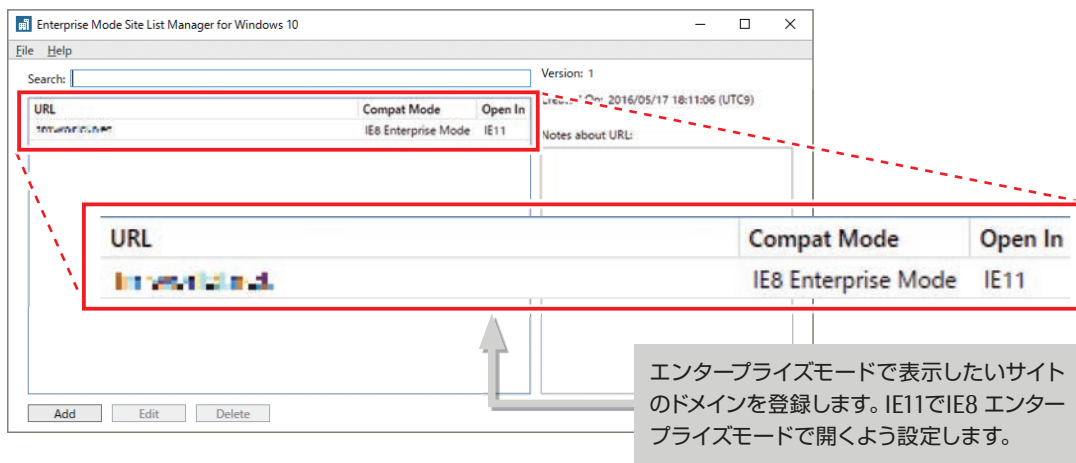
[ツール] にエンタープライズモードが追加されます。選択することで、エンタープライズモードが**閲覧中のWebサイト**で有効になります。



エンタープライズモードが有効な場合、アドレスバーの左側にアイコンが表示されます。IE8で動作するWebサイトを閲覧できます。

● 管理者による設定

- 管理者は、エンタープライズモード IEを有効にしたいサイトの一覧を記載したXMLファイルをグループポリシーから指定することで、指定したWebサイト上で、エンタープライズモード IEが有効になるように設定することができます。
- XMLファイルはEnterprise Mode Site List Managerを利用することにより、作成や編集を行うことができます。



Point

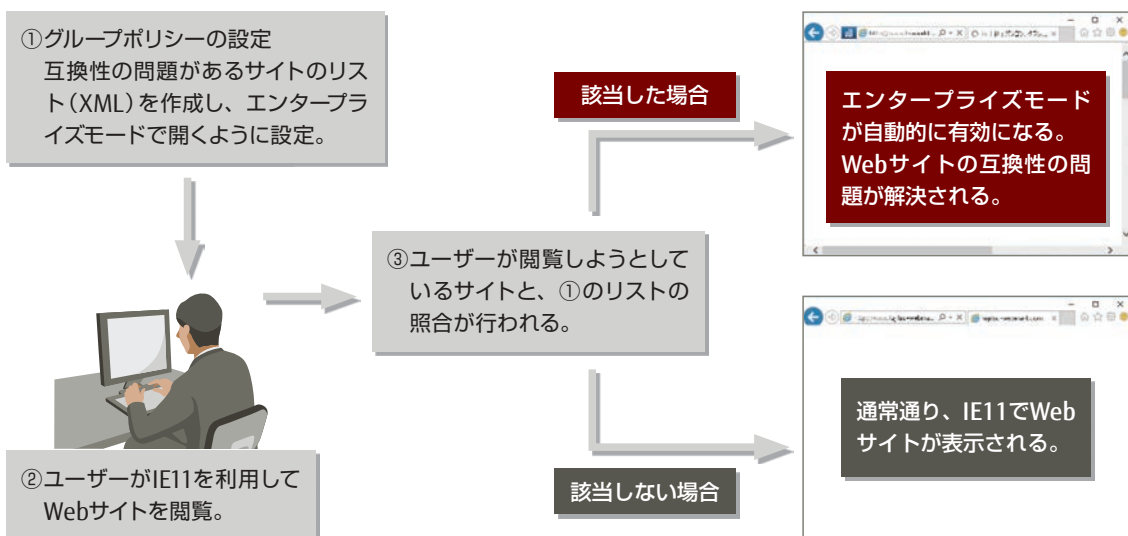
【Enterprise Mode Site List Manager for Windows 10 ダウンロードサイト】

Windows 10用のEnterprise Mode Site List Managerは以下よりダウンロードできます。

 <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=49974>

■ エンタープライズモード IE 利用例

- 互換性に問題があるWebサイト/アプリの一覧を記載したXMLファイルをグループポリシーから指定しておくことにより、該当のサイトにアクセスすると自動的にエンタープライズモードが有効になります。
- ユーザーに意識させることなく、エンタープライズモードを有効にすることができます。



🔴 Internet Explorer 11非互換【参考情報】

■ F12開発者ツール

Webページ開発、デバッグを支援するIEの標準機能です。



F12開発者ツールに含まれるエミュレーションツールで、旧来のIEとの互換性の確認（ドキュメントモード）や、エンタープライズモード時のWebサイトの表示確認をすることも可能です。

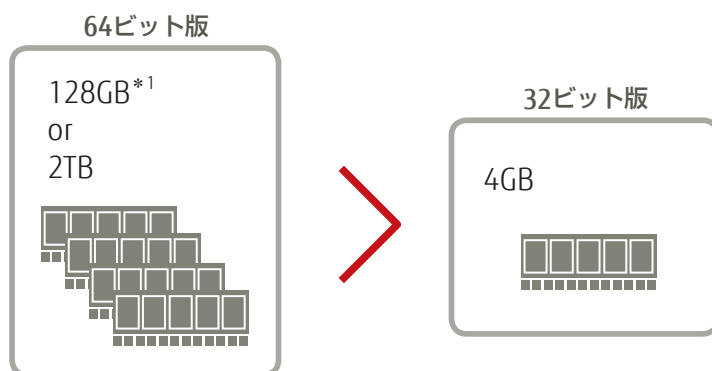
64ビット Windowsの導入



32ビットから64ビットへの移行ポイント

メモリの低価格化により、64ビット版のWindows搭載PCが増加し、主流になっています。64ビット版のWindowsを利用することで、大容量のメモリを搭載することができるため、複雑な演算処理など、プログラムの処理時間を短縮できます。

搭載可能物理メモリの比較



*1：Windows 10 Home エディションのみ、搭載できるメモリ容量は128GBに制限されています。

- 64ビット版では古い周辺機器（特にWindows XP時代の周辺機器）が動作しない可能性があります。
64ビット版で周辺機器を使用できるようにするためには、64ビット版のデバイスドライバーをインストールする必要があります。古い周辺機器には、64ビット版のデバイスドライバーが用意されていない可能性があります。
- 64ビット版では古いプログラムが動作しない可能性があります。
64ビット版Windowsでは、16ビットアプリケーションは動作しません。
64ビット版Windowsでは、WoW64という32ビットエミュレーターが用意されており、32ビットアプリケーションを64ビットOS上で動作させることができます。

	32ビット	64ビット
16ビット版プログラムの動作	○	×
32ビット版プログラムの動作	○	○
64ビット版プログラムの動作	×	○

Point

32ビット版のウイルス対策ソフトウェアや32ビット版の埋め込みドライバーを利用しているプログラムなど、一部のプログラムはWOW64上でも動作しない可能性があります。

ユーザーデータ移行のポイント

① 移行が必要な項目の見積もり

マシン環境

- IPアドレスやDNS設定といったネットワーク周りの設定
- 共有資源に関する設定

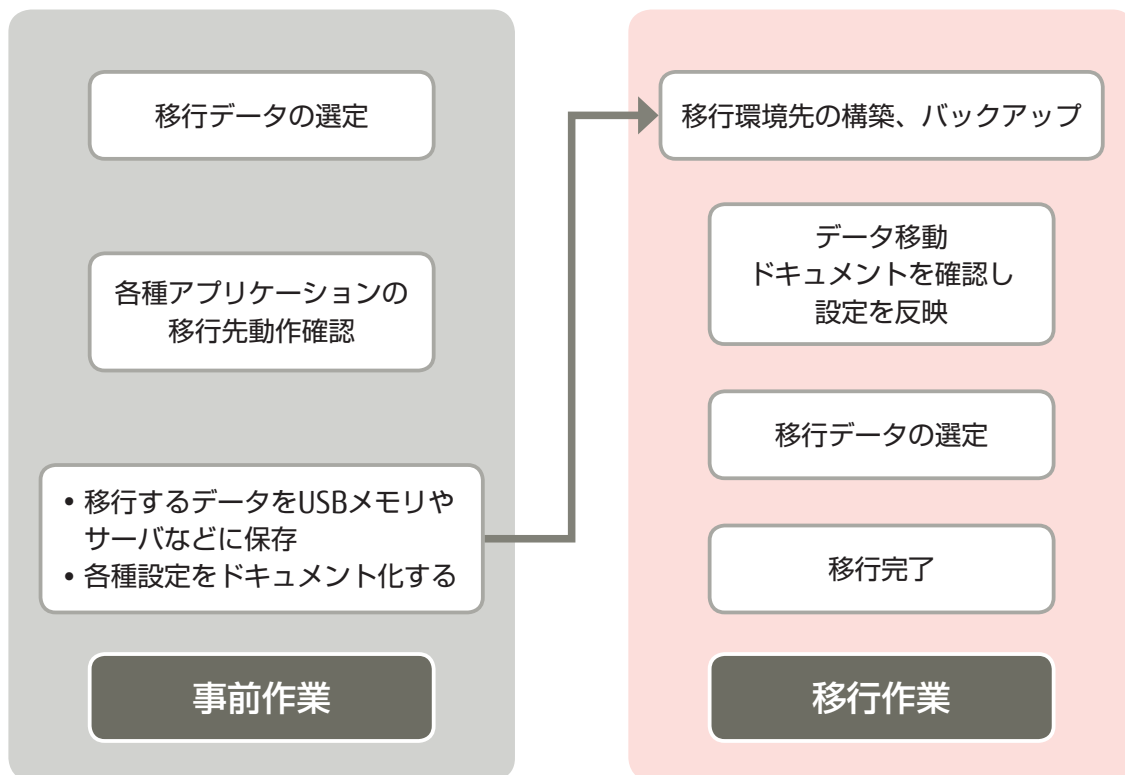
ユーザー環境

- Internet Explorerのお気に入り
- 各種ドキュメント
- メールアカウントの設定、メールデータ、アドレス帳
- 外字ファイルや辞書ファイル

その他

- 各ユーザーが利用していたソフトウェアのデータなど

② 基本的な移行プロセス



▶ データ移行のためのソリューション

ユーザーデータ移行を自動化するツールとして、User State Migration Tool (USMT) がマイクロソフトから無償提供されています。

- USMTは、バックアップと復元のツールで、PC間でユーザーの状態、データ、設定を移行することができます。
 - 下位OSから移行する情報のデータストアを作成する。(ScanState.exe)
 - データストアの情報を上位OSへ展開する。(LoadState.exe)
 - 32ビット版Windowsから64ビット版Windowsへの移行もサポートします。
- 入手方法
 - Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) より入手。
 - Windows 10用ADKは以下よりダウンロードできます。

Point

USMT 10.0



<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/hardware/dn913721.aspx>

▶ 移行ツール利用時の留意事項

ネットワークの設定値やIEの設定など、細かな項目がどのレベルまで移行されるのかを確認することは困難で、詳細な情報も公開されていません。このため、どの項目が移行されるかはユーザー自身で確認する必要があります。無償ツールのため、利用にあたってはユーザー責任となります。利用の際は、事前に十分に検証作業を行うことをお勧めします。

付 録

ハードウェアやソフトウェア対応状況の確認

Windows 10対応状況を製品の開発元に問い合わせ

非対応の場合、対応製品への買い替えをご検討ください。

Point

法人向けPC Windows 10 動作確認情報の確認

 <http://www.fmworld.net/biz/fmv/windows10/info/>

当社ミドルウェアのWindows 10対応状況

 <http://software.fujitsu.com/jp/products/syskou/windows/10/>

VB6/VC6 サポート状況

● VB6のランタイムはWindows 7と同様にサポートされます。

- 主要なコントロールおよびライブラリはサポートされます。
- 32ビットのランタイムのみ提供され、64ビット環境での動作はWOW64上で行われます。
- サポートされているランタイムなど、詳細情報は次のドキュメントを参照してください。

Support Statement for Visual Basic 6.0 on Windows Vista, Windows Server 2008, Windows 7, Windows 8 and Windows 8.1, Windows Server 2012, and Windows 10

 <https://msdn.microsoft.com/en-us/vstudio/ms788708.aspx>

- Visual Basic 6.0 IDEはサポートされません。
(Microsoftとカスタムサポート契約を結んでのサポートは可能です)

● VC6のランタイムはサポートされません。

OSのライフサイクル

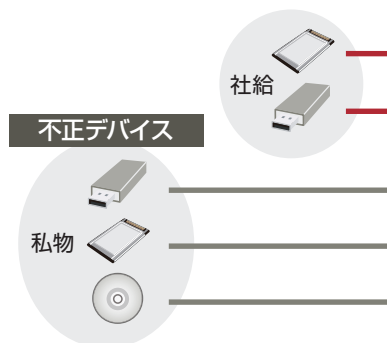
OSのサポートライフサイクルポリシーは、以下のように設定されています。

製品名	最新の更新プログラム またはService Pack	メインストリーム サポート終了日	延長サポート終了日
Windows Vista	Service Pack 2	2012/04/10	2017/04/11
Windows 7	Service Pack 1	2015/01/13	2020/01/14
Windows 8	Windows 8.1	2018/01/09	2023/01/10
Windows 10	N/A	2020/10/13	2025/10/14

Portshutter Premiumなら不正デバイスも

パソコンの情報漏えい対策

「Portshutter Premium」では、「Portshutter」のデバイス遮断（デバイス制御）に加え、LANポートの制御でネットワーク接続を遮断する機能（ネットワーク制御）を追加し、さらに情報漏えい対策を強化しました。



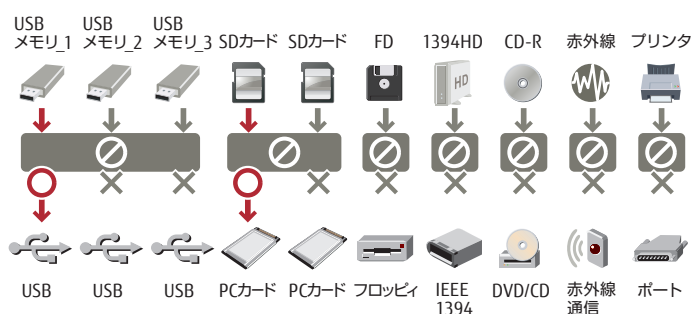
デバイス接続を遮断

デバイス制御

記憶媒体へのポートを遮断し使用制限

パソコンに接続する記憶媒体などのポートを遮断し、それぞれの使用を制限します。

記憶媒体による情報の持ち出し・持ち込みを制限します。



▶ 簡単操作で記憶媒体への出口を個別に制御

デバイスの使用制限を簡単に指定

デバイスの使用制限は「管理者用設定ツール」で簡単に指定できます。ドライブ（DVD、CD、フロッピーなど）、スロット（PCカード、Express Card、メモリーカードなど）、ポート（シリアル、パラレル、USB、IEEE1394、赤外線通信など）のすべてを遮断（ロック）することも、個別に使用制限することもできます。



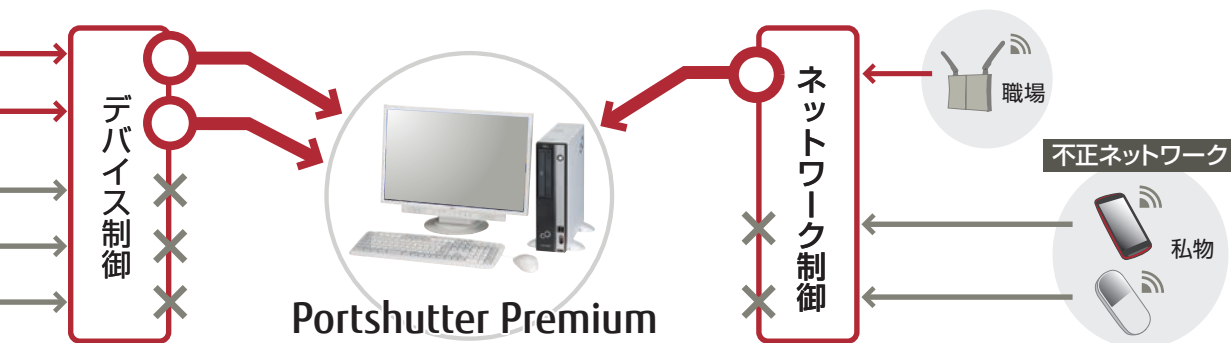
▶ USB機器、PCカードは「機器」ごとに制御

機器ごとに有効/無効/読み取り許可を設定

USBおよびPCカードデバイスは、「機器」ごとに制御できます。例えば、USB接続のキーボードを許可しながら、USBメモリの使用を制限することもできます。また、DVD、CD、フロッピー、USBのストレージデバイスは、読み取りだけを許可することも可能です。



不正ネットワークも遮断します。

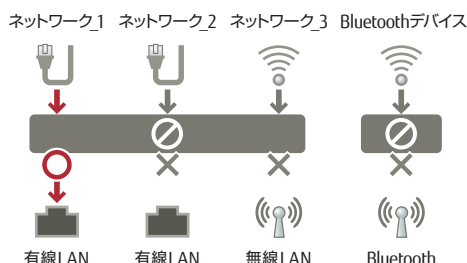


ネットワーク接続を遮断

ネットワーク制御

ネットワークとBluetooth® を遮断し使用制限

LANポートと、Bluetooth搭載機器とのペアリングを遮断し、ネットワークの使用を制限します。
登録したネットワーク以外での情報の持ち出し・持ち込みを制限します。

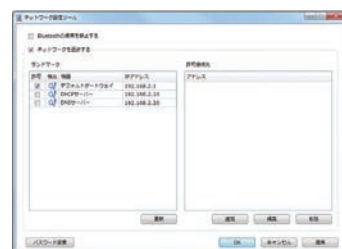


▶ 自動検出したパソコンのネットワーク設定をもとに制御

必要なネットワークのみ使用を許可

ネットワーク全体を遮断後、自動検出したランドマーク※の一覧から、使用を許可したいネットワークに所属する機器を選択することでネットワーク使用の許可を設定します。

※ランドマークとは、社内ネットワークや部署のネットワークなど目印となる機器を指します。
一覧は、パソコンに設定済みのインターネットプロトコルなどから自動検出した機器から作成されます。

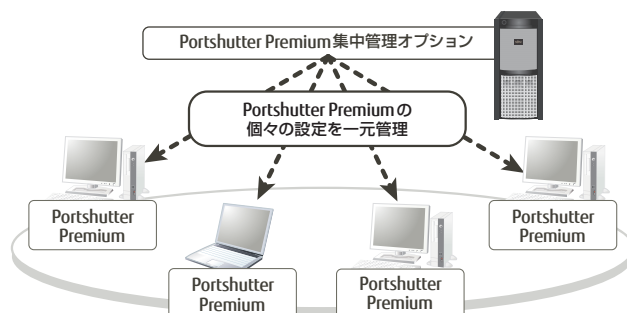


Portshutter Premiumをサーバ上で一元管理

有償オプション

デバイスやネットワークの個々の設定を組織的に管理

集中管理オプション(有償)を利用すれば、ネットワーク上のサーバから各クライアントパソコンのPortshutter Premiumの設定を迅速かつ一括で行えます。
管理の負荷が軽減され、設定ミスや設定もれなどを防ぐことができます。



簡単・確実にプロファイルを移行

User Profile Agentは、パソコンの大規模リブレースや Active Directory®の導入・移行に伴う、プロファイル移行に最適なツールです。

パソコンのリブレースやActive Directoryの導入・移行時には、プロファイルの移行作業を行う必要があります。手作業では、操作ミスによるデータ消失のリスクが発生し、ユーザー数が多いほど、手間と時間がかかるためコストが増加します。

User Profile Agent (ユーザープロファイルエージェント) を利用すれば、誰でも簡単・確実にプロファイルを移行でき、コストも大幅に削減できます。

手作業でのプロファイル移行

❗ 操作ミスによる、データ消失のリスクが発生

❗ ユーザー数に比例して、コストが増加

User Profile Agent でのプロファイル移行

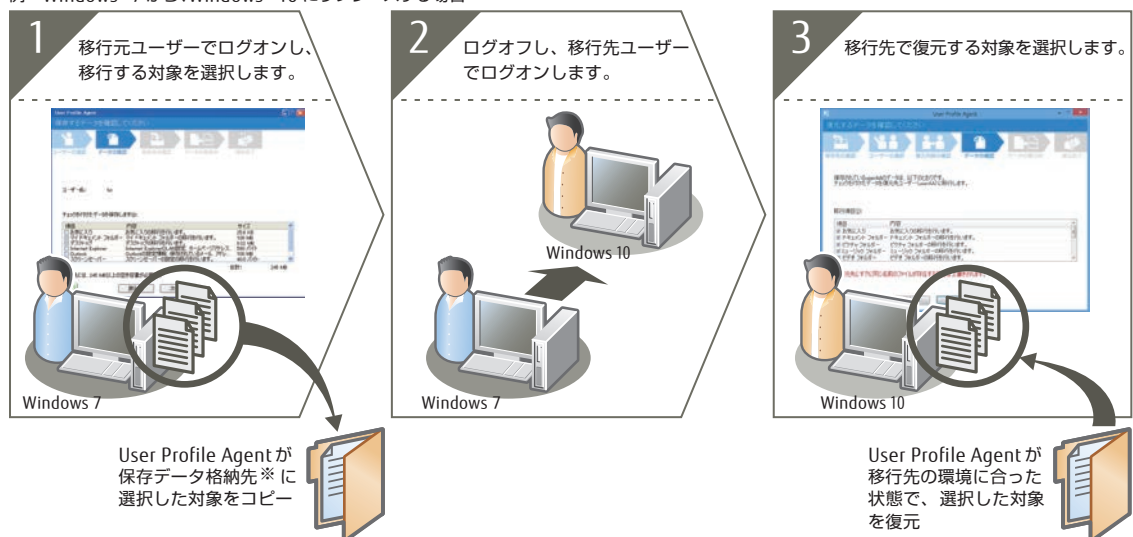
リスク 数回クリックするだけの簡単操作で、移行は完了。
ゼロ 操作ミスによる、データ消失のリスクがありません。

コスト削減 手作業での移行に比べ、約1/8の時間で移行できるため、コストを大幅に削減できます。

**プロファイルの移行作業は、数回クリックするだけで完了。
操作ミスによる、データ消失のリスクがありません。**

User Profile Agentを利用するにあたって、手間のかかるインストールを行う必要はありません。ファイルをパソコンにコピーするだけで利用でき、数回クリックするだけの簡単操作で、プロファイルを確実に移行できます。

例：Windows® 7から、Windows® 10 にリブレースする場合



※保存データ格納先には、ローカルディスク、ネットワーク上のディスク、USBメモリなどを指定できます。

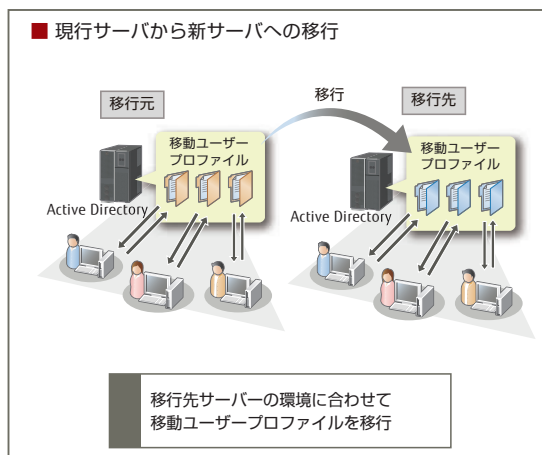
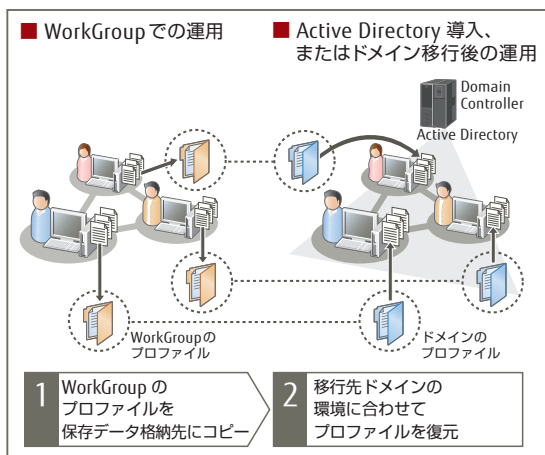
Active Directory® のプロファイル移行も簡単です。

ローカルユーザープロファイルの移行

Active Directory® を導入、またはドメインを移行すると、プロファイルが初期化されてしまうため、今まで利用していたプロファイルの移行が必要です。User Profile Agentを利用すれば、プロファイルを簡単に移行できます。

移動ユーザープロファイルの移行

Active Directoryのサーバーを新しくする場合や、サーバー環境のドメインを変更する場合には、移動ユーザープロファイルの移行が必要です。User Profile Agentを利用すれば、移動ユーザープロファイルを簡単に移行できます。また、移行対象の移動ユーザープロファイルを任意のWindows形式に変換できます。



大規模リプレイスに威力を発揮。 対応時間を短縮し、大幅にコストを削減できます。

大規模リプレイス時にUser Profile Agentを利用すれば、プロファイルの移行作業にかかる時間が短縮され、大幅なコスト削減を望めます。

例：パソコン 2,000台のプロファイルを移行する作業の場合

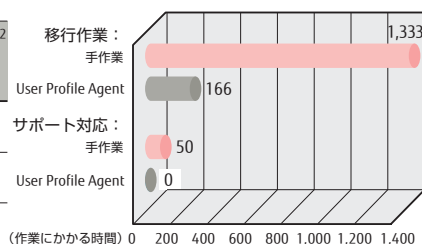
プロファイルの移行作業にかかるコスト： **約1,200時間、およそ230万円を節約できます。**
User Profile Agentなら、手作業で移行する場合に比べ、約1/8の時間で移行できます。

操作ミスのサポート対応にかかるコスト： **約50時間、およそ10万円を節約できます。**
移行作業時の操作ミスが削減されることで、サポート対応時間も削減できます。

作業内容	手作業で移行		User Profile Agentで移行		短縮時間 (a) - (b)	削減コスト※2
	1台あたりの 作業時間 (a)	2,000台の 作業時間	1台あたりの 作業時間 (b)	2,000台の 作業時間		
移行作業	約40分	40分×2,000台 =1,333時間	約5分	5分×2,000台 =166時間	1,200時間	230万円
操作ミスの サポート対応	約30分	30分×100人 =50時間※1	なし	なし	50時間	10万円

※1：20台あたり1台の操作ミスが発生すると仮定した場合の数値です。

※2：コストは、1時間あたり2,000円で計算しています。



リンク集



- Windows 10 Compatibility Cookbook

 [https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/mt670638\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/mt670638(v=vs.85).aspx)

- Windows 10の仕様

 <http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/windows-10-specifications>

- Windows 10 Q & A

 <http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/windows-10-faq>

- ビジネス向け Windows 10

 <https://www.microsoft.com/ja-jp/WindowsForBusiness/default.aspx>

- エンタープライズ向けWindows 10

 <https://www.microsoft.com/ja-jp/WindowsForBusiness/windows-for-enterprise>

OS移行についてのお問い合わせ、ご相談につきましては、下記の富士通営業または販売パートナー
にお申し付けください。

富士通製品情報ページ

<http://www.fmworld.net/biz/fmv/>

インターネットで最新のパソコン製品情報などをご覧いただけます。

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター